

ちゅうぞうみつぐそく
鑄造三具足

種 別 小松市指定文化財 工芸品
指定年月日 平成 23 年 11 月 3 日
所 在 地 滝ヶ原町 (個人蔵)

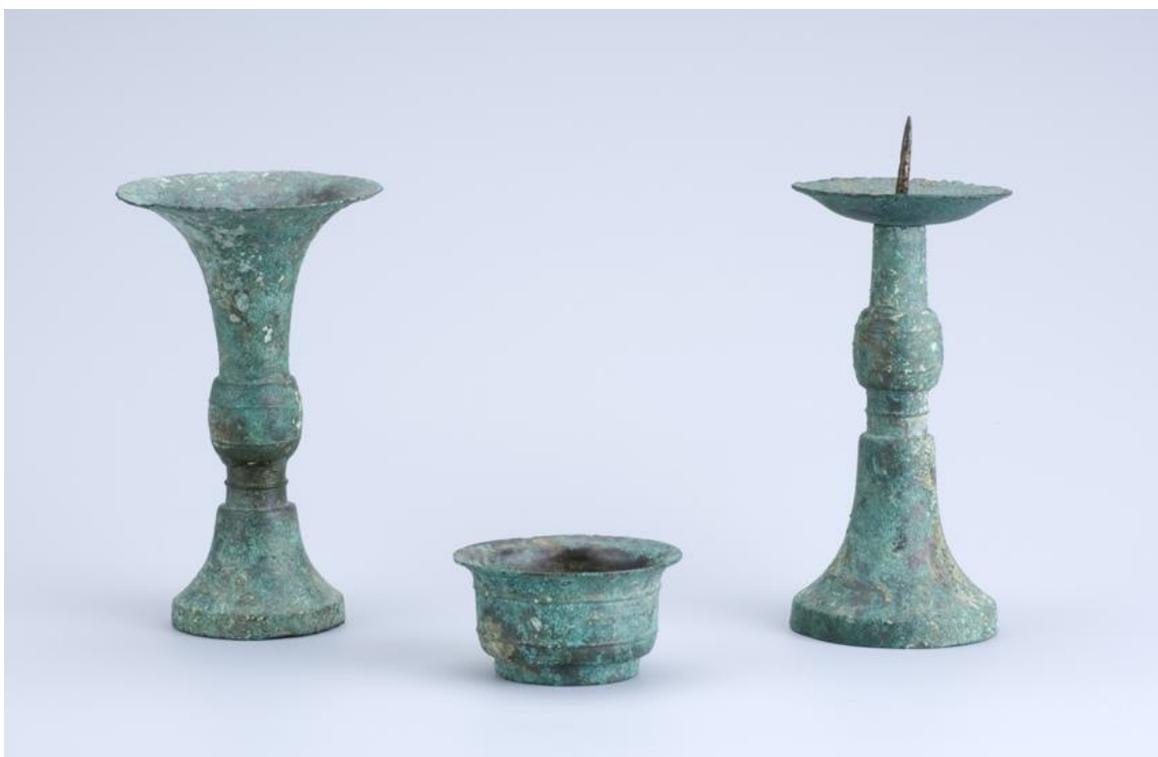
三具足とは仏前を飾る香炉・花瓶・燭台の3つの仏具のことである。

この三具足は、昭和 32 年 (1957)、小松市滝ヶ原町の小谷庸夫氏が、滝ヶ原の南方、三童子山の山道の一角において、地中より偶然発見したものである。

これら金属製の仏具はいずれも遺存状態が良く、香炉や花瓶の特徴から 15 世紀のものと考えられる。また、出土地である三童子山の山腹には、かつて修験しゆげんが存在していたと伝わる平坦地がいくつかあり、その修験と関連する三具足と推測される。

現在、全国にある三具足の出土資料のうち、確実に一組として把握できるものは 50 例程度であり、数少ない出土例として貴重である。また、三具足研究の基準資料、当地域における宗教史研究の重要資料となりえるものとして価値の高いものである。

(※ 修験：日本古来の山岳信仰と仏教の密教的信仰が合わさって、平安時代に形成された宗教)



鑄造三具足 (左から花瓶・香炉・燭台)

花瓶は口径 10.5 cm・器高 17.9 cm、香炉は口径 8.3 cm・器高 4.6 cm、
燭台は口径 8.6 cm・器高 18.0 cm (突起部含まず) を測る。